

保育者養成課程学生における保育実習を通じた 「こども」イメージの変容

Changes in the images of children in students of early childhood
practitioners training course before and after practice preschool teaching

上 長 然

Moyuru Kaminaga

問題と目的

今日、待機児童の増加や保育に欠けないこどもへの保育の需要など、幼児教育に対する社会的ニーズの高まりが指摘されている。また、文部科学省中央教育審議会（2005）において幼稚園教育に限らない幼児期における教育の重要性を強調され、幼児教育の機会の拡大と総合施設の設置や幼児教育と小学校教育の連携と接続の強化・改善が求められてきている。これらは幼児教育への期待の高まりとして考えることができる。

こうした社会の要請を背景としながら、幼児教育の新たな形（たとえば、認定こども園）や新たな資格の設置なども検討されている。そのような現状にあって、保育者養成校では資格の授与とともに保育理念や保育を行う目的、こどもの発達を考慮した保育技術の向上など、保育者としての資質を高めることが求められている（浜崎・加藤・寺菌・荒木・岡本，2008）。

保育者養成課程においては、学習の機会のひとつに実習がある。実習が養成課程学生にもたらす影響は大きく、養成カリキュラムにおいても重視されていることは明らかである。児嶋・高杉・高橋（2002）は保育者養成課程学生における実習に関する保育観の変容に関する調査を行い、入学時「こどもはかわいい」「こどもが好き」と自分本位な志望動機から、実習を通してこどもとの関係のなかで自らの関わりを考えるようになると指摘している。養成課程の学生にとって実習は、実際のこどもとの交流を通して自己の保育観を形成し、保育者になるための準備として考えることができる。

また、これまで教師・保育者の力量としては教授技術などのように目に見えやすいものに焦点が当てられてきた一方で、目標の設定や対処法略などに暗黙裡に影響を及ぼす信念やイメージの重要性も指摘されつつある。Richardson（1996）は、信念と行動は相互的かつ複雑であり、信念による行動の変容や、行動による信念の変容を指摘している。そのように考えると、それぞれが保持する信念やイメージが行動に影響すると思われ、それぞれがどのような信念やイメージを持つかは、保

育者としての資質にも関わる問題であると考えられる。

そこで、本研究では、保育観の基礎となるこどもイメージが保育実習を通じてどのように変容していくか検討することを目的とする。

方 法

調 査 対 象：保育者養成課程に所属する短期大学生74名（女性68名、男性6名）を対象とした。

調 査 内 容：(1) 保育者志望動機：長谷部（2006）による保育者志望動機尺度を使用した。本尺度は保育者志望の動機について問う17項目について、「全くそう思わない」～「とてもそう思う」までの5段階評定で回答を求めた。

(2) こどもに対するイメージ：内田・古谷・兼松・中村（1993）によるこどもに対するイメージ40項目を使用した。各項目について、「全くそう思わない」～「非常にそう思う」までの5段階評定で回答を求めた。

調査手続き：保育実習前の2010年7月および保育実習後の2010年9月に無記名式質問紙調査による一斉調査を実施した。回答にあたっては、プライバシーは保護されること、調査以外に使用されることはないこと、回答が難しい場合は回答しなくてもよいことが紙面上で教示された。

結 果

1. 基礎統計

本研究で用いた尺度の構造を確認するために保育者志望動機尺度について因子分析（主因子法、*promax*回転）を行った（Table1）。その結果、2因子が抽出された。第1因子は「こどもに関わる仕事をしたいから (.86)」「こどもが好きだから (.85)」「やりがいのある仕事だから (.84)」に代表される12項目から構成されていたため「積極的志望動機」因子と命名した。第2因子は、「他に適当な職業がないから (.77)」「ただ何となく (.75)」「周囲の人がすすめるから (.66)」に代表される5項目から構成されていたため「消極的志望動機」因子と命名した。

次に、本尺度における各因子の内的整合性について α 係数を算出したところ、積極的志望動機因子が $\alpha = .925$ 、消極的志望動機因子が $\alpha = .760$ であった。これより、本研究で使用した保育者志望動機尺度は内的一貫性が確認されたため、分析に使用した。

Table2には本研究の対象者における保育実習前後の保育者志望動機の平均値および標準偏差を示した。その結果、積極的志望動機、消極的志望動機とも実習前後で変化は見られなかった。

Table1 保育者志望動機の因子分析（主因子法, Promax 回転）

項 目	I	II
積極的志望動機 ($\alpha=.925$)		
こどもに関わる仕事をしたいから	.86	.03
こどもが好きだから	.85	.04
やりがいのある仕事だから	.84	-.07
こどもの世話をするのが好きだから	.81	.09
幼稚園教諭・保育士にあこがれて	.80	.00
こどもの役に立つ仕事につきたいから	.73	-.06
自分の幼・保育園の先生との良い思い出	.73	-.18
自分の特性を生かしたいと思うから	.68	.12
小さい頃からの夢	.68	-.08
一生続けることのできる職業だから	.62	.20
ボランティア経験から	.61	-.01
幼・保育園での体験学習の経験から	.57	.12
消極的志望動機 ($\alpha=.760$)		
他に適当な職業がないから	-.05	.77
ただ何となく	-.35	.75
周囲の人がすすめるから	.12	.66
資格を取得できるから	.31	.56
経済的に安定しているから	.09	.44
	累積寄与率	52.96%

Table2 調査対象者における保育実習前後の保育者志望動機の平均値および標準偏差

	実習前 平均値 (S.D.)	実習後 平均値 (S.D.)	F値
積極的志望動機	46.75 (9.84)	46.10 (8.45)	.64
消極的志望動機	12.40 (4.04)	12.70 (4.05)	.70

2. 保育者志望動機別にみた保育実習を通したこどもイメージの変容

本研究の対象者における保育者志望動機別にみた保育実習前後のこどもイメージの変容を検討するために、保育実習前の積極的志望動機得点、消極的志望動機得点をそれぞれニュートラルポイント（積極的志望動機36点、消極的志望動機15点）を基準にH群とL群に分類した。すなわち、積極的志望動機H群（37点以上）、積極的志望動機L群（36点以下）、消極的志望動機H群（16点以上）、消極的志望動機L群（15点以下）に分類した。Table3には積極的志望動機群、消極的志望動機群の度数分布をそれぞれ示した。

これをみると、積極的に保育者を志望する積極的志望動機H群は60名で86.96%であり、消極的な志望動機L群は53名で80.10%と多くの学生が保育者に対して前向きな志望動機を持っていることが示された。

次に、保育実習前の保育者志望動機の高低による保育実習を通したこどもイメージの変容を検討するため、こどもイメージの各項目を従属変数、積極的志望動機の2水準（H群、L群）と保育実習の2水準（保育実習前、保育実習後）を独立変数とする二要因分散分析を行った（Table4）。同様に、こどもイメージの各項目を従属変数、消極的志望動機の2水準（H群、L群）と保育実習の2水準（保育実習前、保育実習後）を独立変数とする二要因分散分析を行った（Table5）

(1) 積極的志望動機とこどもイメージ

保育実習前の積極的志望動機の高低と保育実習を通したこどもイメージの変容では、すべての項目において交互作用は有意ではなかった。主効果をみると、「かわいい」「楽しい」「好き」「一緒にいると疲れる」において積極的志望動機の主効果が有意であり、積極的志望動機H群がL群よりも「こども」のことを「かわいい」「楽しい」「好き」だとイメージしていた。また、積極的志望動機L群はH群よりも「一緒にいると疲れる」存在であるとイメージしていることが示された。一方、保育実習の主効果をみると、「素直」「まわりの影響を受けやすい」において主効果が認められ、実習前よりも実習後において「素直」であるイメージが高まり、「周りの影響を受けやすい」というイメージが低下していることが示された。

(2) 消極的志望動機とこどもイメージ

次に、保育実習前の消極的志望動機の高低と保育実習を通したこどもイメージの変容について検

Table3 調査対象者における保育者志望動機の度数分布

	H群 度数 (%)	L群 度数 (%)	合計 度数 (%)
積極的志望動機	60 (86.96)	9 (13.04)	69 (100.00)
消極的志望動機	14 (20.90)	53 (80.10)	67 (100.00)

討した。その結果、「正直」「好き」「楽しい」「おもしろい」「うるさい」「一緒にいると疲れる」「苦手」「嫌い」の項目で交互作用が認められた。そのため、それぞれの項目に対して単純主効果の検討を行った。

「正直」において、保育者志望動機について単純主効果の検定を行ったところ、消極的志望動機L群では、保育実習の前後で有意な差は見られなかった。消極的志望動機H群では、保育実習前<保育実習後であった。次に、保育実習の2水準について単純主効果の検定を行ったところ、保育実習前、保育実習後とも消極的志望動機H群、L群に有意な差は見られなかった。

「好き」において、保育者志望動機について単純主効果の検定を行ったところ、消極的志望動機L群では、保育実習の前後で有意な差は見られなかった。消極的志望動機H群では、保育実習前<保育実習後であった。次に、保育実習の2水準について単純主効果の検定を行ったところ、保育実習前では消極的志望動機H群<消極的志望動機L群であったが、保育実習後では消極的志望動機H群とL群に有意な差は見られなかった。

「楽しい」では、保育者志望動機に関する単純主効果の検定の結果、消極的志望動機L群で保育実習前>保育実習後であったが、消極的志望動機H群では保育実習前後の有意な差は見られなかった。次に、保育実習の2水準に関する単純主効果の検定を実施したとこと、保育実習前、保育実習後とも消極的志望動機H群、L群に有意な差は見られなかった。

「おもしろい」では、保育者志望動機に関する単純主効果の検定の結果、消極的志望動機L群で保育実習前>保育実習後であったが、消極的志望動機H群では保育実習前後の有意な差は見られなかった。次に、保育実習の2水準に関する単純主効果の検定を実施したとこと、保育実習前、保育実習後とも消極的志望動機H群、L群に有意な差は見られなかった。

「うるさい」において、保育者志望動機について単純主効果の検定を行ったところ、消極的志望動機L群では、保育実習の前後で有意な差は見られなかった。消極的志望動機H群では、保育実習前>保育実習後であった。次に、保育実習の2水準について単純主効果の検定を行ったところ、保育実習前では消極的志望動機H群>消極的志望動機L群であったが、保育実習後では消極的志望動機H群とL群に有意な差は見られなかった。

「一緒にいると疲れる」では、保育者志望動機に関する単純主効果の検定の結果、消極的志望動機L群では、保育実習の前後で有意な差は見られなかったが、消極的志望動機H群では、保育実習前>保育実習後であった。次に、保育実習の2水準について単純主効果の検定を行ったところ、保育実習前では消極的志望動機H群>消極的志望動機L群であったが、保育実習後では消極的志望動機H群とL群に有意な差は見られなかった。

「苦手」では、保育者志望動機に関する単純主効果の検定の結果、消極的志望動機L群で保育実習前>保育実習後であったが、消極的志望動機H群では保育実習前後の有意な差は見られなかった。

次に、保育実習の2水準について単純主効果の検定を行ったところ、保育実習前では消極的志望動機H群>消極的志望動機L群であったが、保育実習後では消極的志望動機H群とL群に有意な差

Table4 積極的志望動機別に見たこどもイメージ得点の変容

	積極的志望動機L群		積極的志望動機H群		志望動機 F値	実習 F値	交互作用 F値
	実習前 平均値(S.D.)	実習後 平均値(S.D.)	実習前 平均値(S.D.)	実習後 平均値(S.D.)			
かわいい	4.33 (.71)	4.33 (.71)	4.71 (.54)	4.73 (.45)	5.35 *	.01	.01
生き生きしている	4.44 (.53)	4.56 (.53)	4.67 (.55)	4.61 (.53)	.69	.06	.65
エネルギッシュ	4.56 (.53)	4.44 (.53)	4.69 (.51)	4.67 (.55)	1.27	.35	.17
可能性がある	4.11 (1.17)	4.44 (.53)	4.53 (.67)	4.47 (.64)	1.04	1.16	2.37
純粹	4.33 (.71)	4.33 (.50)	4.49 (.76)	4.69 (.65)	1.32	.71	.71
素直	4.11 (1.05)	4.56 (.53)	4.55 (.64)	4.75 (.52)	2.62	7.50 **	1.13
正直	4.22 (1.09)	4.11 (.78)	4.51 (.73)	4.59 (.70)	2.58	.02	.52
敏感	4.22 (.67)	4.56 (.53)	4.51 (.61)	4.47 (.67)	.27	1.48	2.38
無防備	4.22 (.97)	4.22 (.97)	4.25 (.82)	4.24 (.81)	.01	.01	.01
わがまま	4.11 (1.05)	4.00 (.87)	4.08 (.89)	4.14 (.80)	.04	.03	.34
自分本位	4.00 (1.00)	3.89 (.93)	4.00 (.82)	3.86 (.98)	.00	.78	.01
小さい	4.22 (.97)	4.22 (1.09)	4.20 (.66)	4.16 (.78)	.03	.02	.02
未熟	4.00 (1.00)	3.67 (1.41)	4.06 (.81)	3.88 (.99)	.21	2.16	.20
よく泣く	4.00 (1.22)	3.78 (.97)	3.92 (.92)	3.72 (.95)	.05	1.87	.01
真似が上手	4.00 (1.22)	4.33 (.50)	3.98 (.84)	4.06 (.83)	.31	1.72	.66
意外な行動や考えを持つ	4.78 (.44)	4.78 (.44)	4.29 (.67)	4.47 (.64)	4.00	.59	.59
興味、好奇心が旺盛	4.78 (.44)	4.67 (.50)	4.61 (.53)	4.67 (.48)	.32	.07	.72
集中している時間が短い	3.56 (.88)	3.89 (1.05)	3.96 (.96)	4.08 (.91)	1.02	1.76	.40
感情がはっきりしている	4.11 (1.05)	4.33 (.71)	4.20 (.78)	4.25 (.80)	.00	.96	.33
気分が変わりやすい	4.22 (.97)	4.33 (.87)	4.06 (.86)	4.12 (.89)	.48	.27	.03
表現が豊か	4.33 (1.00)	4.33 (.71)	4.59 (.54)	4.51 (.61)	1.21	.13	.13
成長・発達が著しい	4.56 (.53)	4.22 (.67)	4.55 (.61)	4.55 (.61)	.67	2.74	2.74
年齢によってまったく違う	4.44 (.73)	4.56 (.53)	4.67 (.52)	4.73 (.53)	1.26	.93	.09
こどもなりの意志をもつ	4.67 (.50)	4.44 (.53)	4.59 (.61)	4.67 (.48)	.18	.53	2.33
遊びが大好き	4.78 (.44)	4.67 (.50)	4.69 (.51)	4.78 (.42)	.01	.01	1.70
遊びが生活の中心	4.67 (.71)	4.44 (.73)	4.51 (.73)	4.61 (.75)	.00	.26	1.75
理解力は大きい	3.67 (1.00)	3.78 (1.20)	3.90 (.83)	3.82 (.93)	.22	.01	.44
想像力がある	4.22 (.83)	4.44 (.73)	4.52 (.61)	4.32 (.71)	.76	.76	.76
かわいいと思うと通じる	3.67 (1.41)	3.89 (1.36)	3.88 (.82)	3.90 (.88)	.18	.01	2.46
接し方がむずかしい	4.00 (1.50)	4.11 (1.54)	3.59 (1.24)	3.41 (1.25)	.15	.56	.39
大人が導く必要がある	3.56 (1.24)	4.22 (.67)	4.06 (.83)	4.20 (.69)	1.86	.02	.42
まわりの影響を受けやすい	4.67 (.50)	4.22 (.97)	4.27 (.67)	4.43 (.70)	.93	7.16 **	3.11
好き	4.11 (1.27)	4.11 (1.05)	4.73 (.53)	4.75 (.44)	9.57 **	.01	.01
楽しい	4.11 (1.54)	4.11 (.93)	4.65 (.56)	4.51 (.61)	4.11 *	.32	.32
おもしろい	4.11 (1.54)	4.33 (.71)	4.63 (.60)	4.43 (.67)	1.73	.01	2.62
うるさい	3.56 (1.42)	2.89 (1.36)	2.98 (1.30)	2.98 (1.39)	.31	1.70	1.70
こわい	1.56 (.73)	1.67 (1.00)	2.04 (1.08)	2.04 (1.18)	1.51	.08	.08
一緒にいると疲れる	3.11 (1.54)	3.00 (1.22)	2.31 (1.14)	2.24 (1.19)	4.41 *	.18	.01
苦手	2.00 (1.22)	2.22 (1.39)	1.63 (.92)	1.78 (1.05)	1.54	1.09	.03
嫌い	1.78 (.83)	1.89 (1.17)	1.43 (.85)	1.49 (.90)	1.67	.32	.03

* : $p < .05$ ** : $p < .01$

Table5 消極的志望動機別に見たこどもイメージ得点の変容

	積極的志望動機 L 群		積極的志望動機 H 群		志望動機 F 値	実習 F 値	交互作用 F 値
	実習前 平均値 (S.D.)	実習後 平均値 (S.D.)	実習前 平均値 (S.D.)	実習後 平均値 (S.D.)			
かわいい	4.71 (.51)	4.69 (.51)	4.38 (.77)	4.54 (.52)	2.58	.59	1.05
生き生きしている	4.67 (.52)	4.62 (.53)	4.46 (.66)	4.46 (.52)	1.64	.06	.06
エネルギーが豊富	4.71 (.46)	4.62 (.58)	4.46 (.66)	4.62 (.51)	.87	.11	1.56
可能性がある	4.49 (.73)	4.49 (.59)	4.31 (.95)	4.31 (.75)	.90	.00	.00
純粋	4.56 (.62)	4.69 (.51)	4.08 (1.04)	4.38 (.96)	4.25 *	4.58 *	.72
素直	4.56 (.62)	4.73 (.54)	4.15 (.99)	4.62 (.51)	2.33	9.70 **	1.91
正直	4.56 (.62)	4.49 (.76)	4.08 (1.19)	4.54 (.66)	1.03	3.14	5.62 *
敏感	4.47 (.59)	4.44 (.66)	4.38 (.77)	4.54 (.66)	.01	.37	.66
無防備	4.20 (.87)	4.22 (.88)	4.31 (.75)	4.15 (.69)	.01	.27	.48
わがまま	3.98 (.94)	4.04 (.82)	4.31 (.75)	4.31 (.75)	1.55	.07	.07
自分本位	3.89 (.86)	3.76 (1.00)	4.31 (.75)	4.15 (.80)	2.56	1.33	.01
小さい	4.11 (.71)	4.11 (.86)	4.38 (.65)	4.31 (.75)	1.22	.11	.11
未熟	4.07 (.84)	3.82 (1.01)	3.92 (.86)	3.92 (1.26)	.01	.65	.65
よく泣く	3.89 (.99)	3.66 (.96)	4.08 (.86)	3.92 (.86)	.72	1.94	.07
真似が上手	3.93 (.86)	4.13 (.73)	4.08 (1.04)	3.92 (1.04)	.02	.03	1.65
意外な行動や考えを持つ	4.42 (.58)	4.53 (.59)	4.08 (.86)	4.38 (.77)	1.99	4.27 *	.94
興味、好奇心が旺盛	4.64 (.48)	4.64 (.48)	4.54 (.66)	4.69 (.48)	.05	.76	.76
集中している時間が短い	3.82 (1.01)	4.02 (.99)	4.00 (.71)	4.15 (.69)	.36	1.51	.03
感情がはっきりしている	4.22 (.85)	4.29 (.76)	4.08 (.64)	4.31 (.63)	.09	1.42	.43
気分が変わりやすい	4.07 (.91)	4.16 (.90)	4.15 (.69)	4.15 (.80)	.03	.09	.09
表現が豊か	4.60 (.50)	4.51 (.59)	4.31 (.95)	4.38 (.77)	1.47	.00	.76
成長・発達が著しい	4.56 (.55)	4.51 (.59)	4.46 (.78)	4.38 (.77)	.41	.44	.03
年齢によってまったく違う	4.67 (.52)	4.71 (.51)	4.46 (.66)	4.62 (.65)	.96	1.63	.50
こどもなりの意志をもつ	4.60 (.58)	4.67 (.48)	4.54 (.66)	4.46 (.52)	.82	.00	.66
遊びが大好き	4.71 (.46)	4.78 (.42)	4.62 (.65)	4.69 (.48)	.49	.99	.01
遊びが生活の中心	4.53 (.73)	4.51 (.82)	4.46 (.78)	4.77 (.44)	.20	1.79	2.39
理解力は大きい	3.87 (.84)	3.87 (.99)	3.85 (.90)	3.62 (.87)	.28	.83	.83
想像力がある	4.50 (.63)	4.45 (.59)	4.31 (.75)	3.92 (.95)	4.24 *	3.30	2.05
かわいいと思うと通じる	3.80 (.84)	3.96 (.85)	3.92 (1.19)	3.69 (1.25)	.07	.07	1.91
接し方がむずかしい	3.58 (1.27)	3.51 (1.29)	3.92 (1.26)	3.38 (1.45)	.09	2.52	1.53
大人が導く必要がある	3.98 (.94)	4.22 (.70)	3.92 (.86)	4.08 (.64)	.21	2.13	.11
まわりの影響を受けやすい	4.29 (.66)	4.38 (.78)	4.46 (.66)	4.46 (.66)	.43	.17	.17
好き	4.73 (.58)	4.62 (.65)	4.23 (1.01)	4.69 (.48)	1.30	4.43 *	11.82 **
楽しい	4.64 (.65)	4.42 (.66)	4.23 (1.17)	4.46 (.78)	.81	.00	4.81 *
おもしろい	4.64 (.65)	4.38 (.65)	4.15 (1.21)	4.46 (.78)	.97	.03	6.76 *
うるさい	2.86 (1.32)	2.95 (1.41)	3.69 (1.11)	2.92 (1.26)	1.15	3.03	4.86 *
こわい	1.80 (.89)	1.93 (1.14)	2.38 (1.12)	2.00 (1.00)	1.36	.57	2.43
一緒にいると疲れる	2.11 (1.09)	2.29 (1.22)	3.38 (1.04)	2.46 (1.05)	5.56 *	4.16 *	9.07 **
苦手	1.53 (.84)	1.84 (1.11)	2.00 (.91)	1.69 (.75)	.37	.00	3.99 *
嫌い	1.29 (.59)	1.49 (.87)	1.92 (.95)	1.54 (.78)	2.72	.53	5.32 *

* : $p < .05$ ** : $p < .01$

は見られなかった。

「嫌い」について、保育者志望動機に関する単純主効果の検定の結果、消極的志望動機L群、消極的志望動機H群とも保育実習前後の有意な差は見られなかった。次に、保育実習の2水準について単純主効果の検定を行ったところ、保育実習前では消極的志望動機H群>消極的志望動機L群であったが、保育実習後では消極的志望動機H群とL群に有意な差は見られなかった。

次に、主効果をみると、「純粹」「想像力がある」において消極的志望動機の主効果が有意であり、消極的志望動機L群がH群よりも「こども」のことを「純粹」で「想像力がある」とイメージしていた。また、保育実習の主効果をみると、「純粹」「素直」「意外な考えを持つ」において主効果が認められ、保育実習を通じてこどもを「純粹」で「素直」な「意外な考えを持つ」存在であるというイメージの高まりが示された。

考 察

本研究では、保育実習前の保育者に対する志望動機の高さが保育実習を通じたこどもイメージの変容にどのように影響するか検討してきた。本研究では、保育者志望を積極性の高さと同極性の高さから検討を行った。つまり、積極性が高い、あるいは同極性が低いというのは保育者に対して前向きな志望動機を持っているグループであり、積極性が低い、あるいは同極性が高いというのは保育者に対して前向きではない志望動機を持つグループである。こうしたグループが保育実習を通してこどもイメージをどのように変容させるか検討した結果、大きく2つのことが示唆されたと考えられる。

一つ目は、保育者を志望する積極性とこどもイメージの関係である。保育実習の前後にかかわらず積極的志望動機が高いグループあるいは同極的志望動機が低いグループは「かわいい」「好き」「楽しい」「素直」「純粹」といった肯定的なイメージを持っていた。上長(2009)は保育者に対して肯定的なイメージを持つ学生はこどもに対しても肯定的なイメージを持つことを示している。保育者という職業を積極的に志望する学生は、こどもに対してすでに肯定的なイメージを持つためであると考えられる。

二つ目は、保育実習を通じたこどもイメージの変容である。保育実習前の積極的志望動機の高さと保育実習前後のこどもイメージには交互作用が見られなかったが、同極的志望動機の高さと保育実習前後のこどもイメージには交互作用が見られた。交互作用を詳細に検討すると、2つの特徴が見られたと思われる。まず、保育実習前に保育者に対して同極的な志望動機が高かった学生は保育実習前に比して保育実習後にはこどもに対する肯定的なイメージが高まり、また否定的なイメージは低下し、積極的志望動機群と同程度になった。これは、保育実習を通して実際にこどもと交流し、こどもの様々な面を見ることで、それまで持っていた自己の信念が変容したのであると考えられる。

また、同極的志望動機の低かった学生は保育実習を通して「楽しい」「おもしろい」の項目で得点が低下した。三島(2007)は、教育実習前後で実習生のこどもイメージを検討し、実習後にはこ

どもに対する肯定的・否定的イメージの両側面を捉えるようになることを指摘している。また、岡野（2003）は、女子学生と幼稚園児母親を対象にこどもに対するイメージの比較を行い、女子学生はこどもを一側面的に捉えがちであるのに対して、幼稚園児の母親はこどもを「大切であり、いとおいしい」が「難しい」というアンビバレントなイメージを抱いていることを示している。

保育実習前に消極的な志望動機が高かった学生にとっては、保育実習を通じてこどもを肯定的に捉えるようになり、消極的な志望動機が低かった学生は肯定的なイメージを低下させ、保育実習前の志望動機の高さとこどもイメージの差は見られなくなっていた。保育実習を通じた実際の交流が、保育者に対して消極的であった学生にとってはこどもイメージを肯定的に変容させ、前向きであった学生にとっては肯定的だけではなく複眼的な視点を育てていると考えられる。

これらのことから、保育者養成課程の学生にとって保育実習の経験は、こどもイメージに変容をもたらすとともに、今後の保育観の形成や保育者の資質向上に繋がっていくと考えられる。

引用文献

- 浜崎隆司・加藤孝士・寺藪さおり・荒木美代子・岡本かおり（2008）. 保育実習が保育者効力感、自己評価に及ぼす影響 鳴門教育大学研究紀要, **23**, 121-127.
- 長谷部比呂美（2006）. 保育者をめざす学生の志望動機と資質能力の自己評価 淑徳短期大学研究紀要, **45**, 115-130.
- 上長 然（2009）. 保育者養成課程学生における保育者志望動機と「こども」イメージとの関連－入学時の志望動機と「こども」イメージ－ 近畿大学豊岡短期大学論集, **6**, 41-48.
- 児嶋雅典・高杉 展・高橋 健介（2002）. 保育者養成における授業研究の試み：保育学生の保育観の変容と授業の展開 松山東雲短期大学研究論集 **33**, 37-46.
- 三島知剛（2007）. 教育実習生の実習前後の授業・教師・子どもイメージの変容 日本教育工学会論文誌, **31**, 107-114.
- 文部科学省中央教育審議会（2005）. 子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について
- 岡野雅子（2003）. 子どもに対するイメージ：女子学生と幼稚園児母親との比較と保育教育への示唆 信州大学教育学部紀要, **110**, 57-67.
- Richardson, V. (1996). The role of attitudes and beliefs in learning to teach. In J. Sikula, T. Buttery, & E. Gutor (Eds.), Handbook of research on teacher education. 2nd ed. Pp.102-119. New York: Macmillan.
- 内田,雅代・古谷佳由理・兼松百合子・中村美保（1993）. 小児看護実習における学生のこどもに対するイメージの変化について 千葉大学看護学部紀要, **15**, 35-43.